



上尾市議会議員 上尾に活力・地域力

深山たかし

深山たかし後援会
上尾市大字上1774-7
776-0575
fukayama-sov@jcom.home.ne.jp
ホームページは検索サイトから「深山たかし」で閲覧できます

議会レポート

三億八千八百二十万円利子償還額 が不要になりました

最近の低金利の状況を見ると、市が高い金利で借り入れをしている借金を借り換えや繰り上げ償還をすることによって厳しい財政のやりくりも緩和されると思いますが、一期目より強く主張してまいりました。

民間であれば、高金利の借入金はいくらに借り換えの対象となるとありますが、今まで制度上の制約もあり、繰り上げ償還を行う場合、補償金を納めなければ実現出来ないという説明をされていました。

この度、平成十九年度から三年間の臨時特例措置として、財政融資資金・簡保資金・公庫資金による貸し付けのうち金利5%以上の

ものの一部について、一定の要件に該当する資金（上尾市の財政指標では、7%以上の資金だけ）を対象にこの制度を活用することが出来るようになり、三億八千八百二十万円利子償還額を軽減することが出来ました。

上尾市では、本制度を活用することにより、普通会計で四二二万二、六四三円、公共下水道事業特別会計で二億八、一六一万五、七七四円、水道事業会計で一億二、三七七、三九四円が不要となりました。

この財源を市民サービス向上の為に有効に活用して頂きたいものです。

レジ袋の削減 エコバッグ普及

最近、石油の価格が急激に上昇しております。二一年当時に百円ノリ以下だったレギュラーガソリンは、今後百八十円ノリになるとの報道もされています。

また、それに連動するかのようになり、あらゆる食品や生活必需品も値上げされるようになり、市民生活を圧迫してきております。私たちも何らかの工夫が必要ではないでしょうか。

知らず知らずに使っているレジ袋は、年間三億枚も消費されていると言われておりますが、レジ袋を廃止することで、原油換算で五五・八万キロリットル（日本ポリオレフィンフィルム工業組合調べ）も節約できるそうです。

エコバッグもおしゃれなものが出回るようになりました。皆さんも実行してみてください。

道路整備費の 推移と要望箇所

住民の皆様から交差点や道路改良の要望を伺います。緊急時を除き、道路工事の着工がなかなか実現していませんので、理由を聞きました。

ピーク時の平成三年度は、約十八億円に届く予算であったが、今年度の当初予算では、四億八、万円程度になつてきている。（三分の一以下の大幅な減額です）

「要望箇所数と実行箇所数」は、平成五年度から平成十九年度までの十五年間の要望箇所は、五、二六箇所となっている。その内、今年度の当初予算での箇所付けを含め三、六九箇所の整備を行っている。今後は、この未整備の二、五七の要望箇所を順次整備して行くことになるが、要望された箇所には課題が多く整備できない箇所も含まれている。（道路整備費増額を要望致しました）

高齢者福祉

国保補助制度について

長寿医療制度への移行に伴い七五歳以上の方の「国保補助制度（人間ドック検診や保養施設利用補助）が利用出来なくなっておりましたが、「高齢者宿泊施設利用補助事業」を平成二十年八月一日から、国保同様、一泊につき三、円、円、年度内一泊まで、「人間ドック検診補助」を平成二十年九月一日から、ひとりにつき一、円、円の補助を実施出来る事になりました。

自動車運転免許証 自主返納について

交通事故のうち、「高齢の方の運転中に関わる報道を良く耳にします。行政の後押しで防げる事故も多いと感じることから質問を致しました。返納が進まない理由の一つに、運転免許証を返すと

身分証明になるものが無くなってしまふことが上げられるそうですので、写真付きの住民基本台帳カードを取得することも一案かと考えます。（市民課窓口で五円で作成できます）
埼玉県内では、羽生市（タクシー利用補助）と秩父市（五、円）のバスカードが支給）を実施しております。
上尾市としては、今後の検討課題だそうです。

行財政問題について

「ISO9001」の今後

上尾市が取り組んでおりますISO9001は職員への意識付けも充分に定着し役割が終了したように思う。「ヒヤリハット」等の事例を共有することにより市民満足度は向上し、国際規格を再取得せずには目的は達成すると私は感じ、今後の方向性を尋ねました。

現在、認証登録後五年近くが経ちますが、市民の方の利用が多い、一・二階の市民部・健康福祉部のISO対象の各部署においては窓口接遇の向上や問題の早期解決など様々な効果が現れていると思う。
特に窓口接遇においては、職員がISO対象外の部署へ異動した後も認証登録に値する対応をとっており、全庁的な市民満足度も向上していると思う。

「ふるさと納税制度」の受け皿づくり

上尾市においても受け皿も作る必要性を感じ、見解を伺いました。

ふるさと納税制度は、平成二十年四月三十日に地方税法改正案が衆議院で再可決されたことを受けてスタートしました。「ふるさとのために貢献したい」又は「生まれ育つたふるさとや地域を応援したい」という納税者の思いを実現する観点から、応援や貢献したいと思う地方公共団体に対し

て寄附した場合、その相当額をお住まいになっている地方公共団体の住民税などから税額を控除する制度のこと。そして、上尾市では、みどり・社会福祉・文化振興、その他の四つのカテゴリーで寄附金を活用させていただくこととしており、具体的には、既存の「みどりの基金」、「社会福祉基金」、「文化芸術振興基金」を受け皿とし、寄附金を受け入れる予定。また、用途は限定せずに、上尾市を応援したいという方からの寄附金については、「その他」として一般会計で受け入れる予定。

【その他の質問項目】

学用品の再利用について
地域リサイクル活動
ゴミ集積場について

編集後記

上尾市の「総合基本計画」をみると総論では、バラ色のすばらしい基本計画になっておりますが、各論

に入りますと、検討のテーマすら出来ていないものが多くありましたので、何のために「総合基本計画」はあるのか、「行財政三カ年実施計画」との関連性と財政的裏付けなどを伺い、さらには、より戦略的な総合計画づくりなどの提案を行いました。

市は、「上尾らしさ」と表現をし、「土曜開庁」、「ぐるっと君運行」などを市民向けにPRしてきましたが、周辺自治体と比べ、独自色に乏しく思います。

例えば川越は、「倉造りの町並み・小江戸」を思い浮かべることが出来ますが、現在のところ「上尾市」から連想することは、主に事件絡みの出来事が多く、良い印象とは言えません。

市政施行五十周年を期に統一したイメージを作り上げてもらえるのではないかと考えております。

上尾市をどの様な都市にしてゆきたいのか、将来構想を具体的に構築する必要性を強く感じております。

市政に対するご要望がございましたら、ご連絡ください。